

自分たちのまちのことを考えてみよう

中学生子ども議会開催



市の将来を担う子どもたちに、自分たちの住むまちの姿を見つめ、疑問や希望などを発言する場を設けることで、行政への関心を高めてもらおうと、11月17日に市議会議場で「中学生子ども議会」を開催しました。

開催の方法

市内7中学校から議長2人、議員9人、補助議員9人を選出。質問は、議員がそれぞれ3分以内で行い、市長・教育長が答弁。再質問は補助議員が行ってもよい。



須山議長

学校名	議長
高梁	須山 貴文
成羽	岡本 克幸

学校名	議員	質問
高梁	森下 侑哉	医療費の免除の財源について
高梁	平松加奈子	市の特別支援教育の充実について
高梁東	三村 友洋	市健康増進施設「朝霧温泉ゆ・ら・ら」は、今後どのように利用されるのか
高梁北	才田 正義	学校を地域コミュニティの中心にしていくために
有漢	平田 幹央	高速道路一部無料化を市の観光活性化につなげられないか
成羽	西林まどか	市の人口減少化について
成羽	土田英里加	成羽中学校付近の道路について
川上	前原 史哉	スポーツ振興について
備中	物部 侑吾	バスの増便・遠征費の補助はできないか

質問と答弁



森下 侑哉 議員（高梁）

◎10月1日から高校生までの医療費が免除になったが、その財源について質問したい。

とてもいい政策だと思うが、どんな税金がこの政策にあてられているのか。また、この政策を行った結果として、将来の高梁市にどのような良いことが想定されているのかも知りたい。

市長 高校3年生まで無償にすることで、発生する費用は約2900万円です。

この財源は、私たち職員の人件費や事務の見直しをするなどして捻出したい。でも、このお金は生かされるお金である。子どもたちの未来のために、子育てのためにこういう施策を行っている。



平松加奈子 議員（高梁）

◎産業界における実習など、就労による社会自立を目指すための職業教育が充実している高等支援学校は県南にしかないため、高梁市から通うのは困難。地域に根ざした専門的な教育を受けることができる高等支援学校を市内につくってほしい。

教育長 市内に支援学校を設置していただくよう県に要望してきましたが、倉敷市に新設されることなどが決まってしまうと残念。今後は、通学の便宜を図ることなど要望を続けていきたい。新見市にある健康の森学園支援学校は今まで全寮制だったが、来年度からは通学もできるようなになった。今後もさまざまな機関と連携して充実を図っていききたい。



三村 友洋 議員（高梁東）

◎これから観光都市として、高梁市が発展していくためにも、現在閉鎖している「朝霧温泉ゆ・ら・ら」の経営を続けてほしい。今回のゆ・ら・らの一時閉鎖を機に、子どもからお年寄りまで快適に利用できる施設にしてほしい。

市長 最終的には民間業者に経営をお願いするのがいいと思っている。野球やサッカーなどで、神原スポーツ公園を利用した人が、「ゆ・ら・ら」も利用してもらえそうな取り組みを考えたい。

市にとって交流人口の増加は大切なことと考えており、そういう観点で質問していただいたことはありがたい。



才田 正義 議員（高梁北）

◎学校の体育館は、舞台がなく狭い。行事があるたびに、舞台・照明・幕などを手づくりで設置している。広い体育館に改修してほしい。体育館がバリアフリー化されて広くなれば、地域の高齢者などが気軽に学校へ来られるようになり、学校を中心としたコミュニティをつくっていきけるようになるのでは。

教育長 市内の学校の多くはバリアフリー化に対応できていない。学校の実態に応じて可能なところからエレベーターを設置するなどの対応を行っているが、大規模な改修は難しい。現在取り組まれている地域活動をさらに充実させ、皆さんの若い力で地域との結びつきを一層強めていくことを期待している。